

SHIRAKOBATO

しらこぼ



1994. 10

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

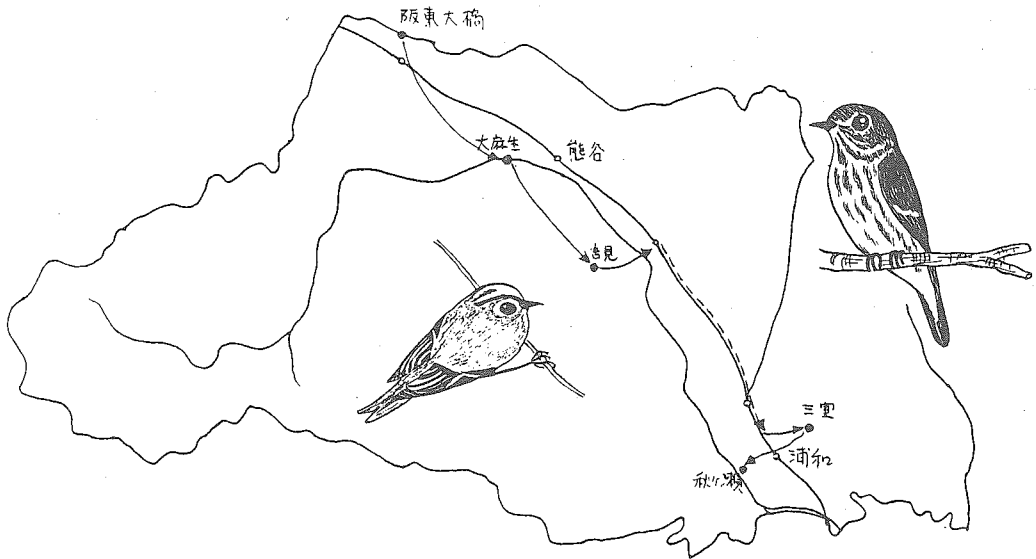
WILD BIRD



NO. 126

日本野鳥の会 埼玉県支部

バードソン 「埼玉レッズ'94」



第8回のバードソンが11月13日(日)に開催されます。「野鳥保護基金」を充実させるというのが今回の目的ですが、「なんだ今年もバードソンか」という人のために、私の性格そのままに、真正面からもう一度バードソンの意義を述べてみましょう。

自然の贈りもの

お米が不足して日本中が大騒ぎしたのは昨年の話、今年は水が不足して大騒ぎです。私たちの生活にとって欠かせないお米や水は、あるのが当たり前で、なくなることが異常なことに思われています。「米の飯とお天道様はついて回る」といいますが、自然の恵みに恵まれすぎていると、いつか人間はその恩恵を忘れてしまうようです。

水や空気や食べ物ばかりではありません。
千葉県の行徳あたりは、20年前には1日歩

浦和周辺の三室、差間、見沼ヘルシーロードなどを担当しています。春秋のシギ・チ、冬のカモもいいですが、やはり初夏の山の鳥が好き。
(キャプテン 伊藤芳晴)



き回ると100種類くらいの鳥が出たそうですが、今では50種弱ほどです。

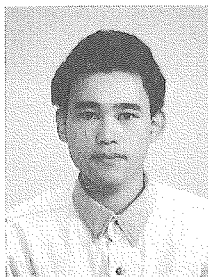
このところ、サンコウチョウ、サンショウクイ、ブッポウソウの渡来数も減っているそうで、なかなか見られなくなりました。原因は、日本で営巣場所が減ったことよりも、越冬地の熱帯雨林が減少していることによるらしいと言われています。この熱帯雨林が失われるスピードは現在、1秒間に東京ドームの面積に相当するという恐るべきものです。

自然の贈りものを受け取るだけで生活していける時代は、どうやら終わったようです。

鐘撞堂山、三峯山などを担当。ワシ・タカ大好き。

フィールドでは、藪や林の中を丹念にチェック。そうすれば鳥のほうから現れてくれるはず。

(田口浩司)



宇宙船地球号の20年

1972年にストックホルムで国連人間環境会議が開かれました。水俣病をはじめ、公害問題が討議され、環境の保全と向上を目指すストックホルム宣言が採択されました。宇宙船地球号のキャッチフレーズも誕生しました。それから20年たった1992年、ブラジルのリオデジャネイロで地球サミットが開催されましたが、この時に取り沙汰されたのは、この20年間には何も改善されておらず、地球の環境破壊はますます悪化の一途をだどってきた、ということでした。

地球環境をめぐる問題は様々な形で私たちを取り巻いています。熱帯雨林の減少は生物種の減少、絶滅をもたらしています。他にも人間が排出する二酸化炭素による温暖化、車の排気ガスによる窒素酸化物の増大と酸性雨、フロンガスによるオゾンホール、放射性廃棄物を含めたゴミ問題、海洋汚染、等々。数えあげていくうちに、だんだんと気が滅入ってきそうです。実際、公的な立場から環境問題に携わっている人は、絶望的になるそうです。私たち人間は地球の生命圏の中で、まるでガン細胞のように振るまっているというわけですから。



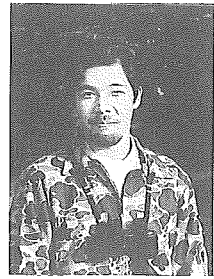
私たちにできることは

まず第一に、現在の状況を理解したうえで、希望を持つことです。現状を知れば知るほどその深刻さに目を覆いたくなりますが、自然と人間には、その事態を克服していく力が備わっていることは確かだと思います。人間に自然治癒力が備わっているように、自然にも回復力が備わっています。埋立地に雑草が生い茂り、急速に生態系を形成していく姿は、その強靱な生命力のあらわれでしょう。人間が知恵を絞って手助けしていけば、病人でいる地球の蘇生は可能です。

第二に、何でもかまわないから、まず最初の一歩を踏み出すことです。生活に関わる問

狭山市入間川、狭山湖、西川越探鳥会などを担当。実は水辺より森で鳥を見る方が好き。自宅近くの雑木林をテリトリーとしているが、県内各所に出没する。

(長谷部謙二)



題は生活の場から、というわけで、足元からの行動がポイントになります。バードソンもそのひとつと考えていただきたいのです。

日本ではNGO（非政府機関）の力が、まだ弱いと言われています。行政も重い腰を上げて本気になり始めたようですが、状況の変化に柔軟に対応できるNGOの役割は、ますます大きくなっています。日本野鳥の会は日本のNGOの中でも重要な位置を占めている団体です。

そこでいよいよバードソン

チーム名は「リブラン埼玉レッズ'94」。鳥を見るのも埼玉で、ということで私たちの書いた本『気ままにバードウォッチング』に掲載される場所を選んで回ります。本庄の阪東大橋から大麻生、吉見、三室、秋ヶ瀬と、昨年とは逆に南下してくるコースを予定しています。

昨年の記録は72種！ これを絶対に上回って見せると全員の意見が一致しました。

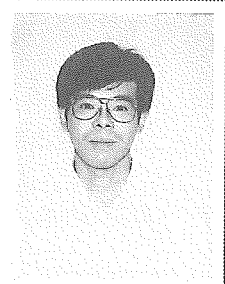
埼玉県内でこれだけの鳥が見られるんだぞ、と大いばりできるようにがんばります。

皆様の御協力をよろしくお願いします。

(杉本秀樹)

西は狭山湖、東は谷津干潟を担当。海外は三宅島にしか行ったことがないので、遠くへ行けそうなアマツバメにあこがれる。昨年の記録を追い抜こうと意気込んでいる。

(杉本秀樹)



突然ですが

本部事務局が移転しました

本部企画事業部の移転については、かねてから『野鳥』誌上のお知らせなどでご存じと思いますが、バードショップがなくなれば、本部事務局そのものも、表通りに面した所でもなくとも良いのではないかと、移転が決まりました。

渋谷駅から徒歩12分の距離は、今までとほぼ同じ。床面積は、これまでの研究センターや地下倉庫まで含めた広さとほぼ同じで、家賃はこれまでのほぼ半分。国際自然保護センターのできるまでの数年間ですが、年間 1,000万円位の経費削減を目指します。

[本部事務局の移転先]

150 渋谷区南平台15-8

ウッドイ南平台ビル2階

(渋谷駅南口から徒歩12分)

TEL 代表・インフォメーション

03-3463-8841

総務部・政策調査部

03-3463-8898

保護部 03-3463-8861

普及室・会員室

03-3463-8842

編集室・サクチュアリ室

03-3463-8860

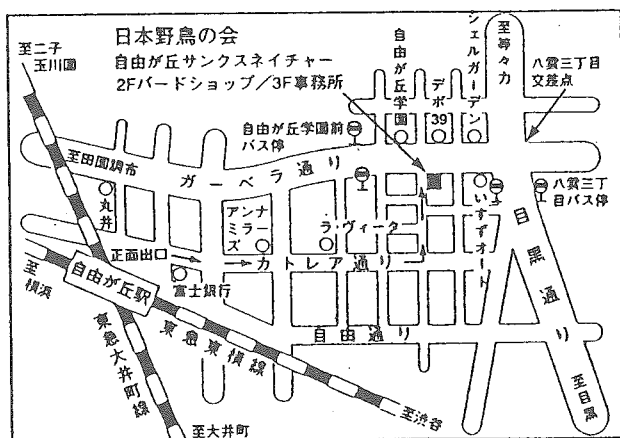
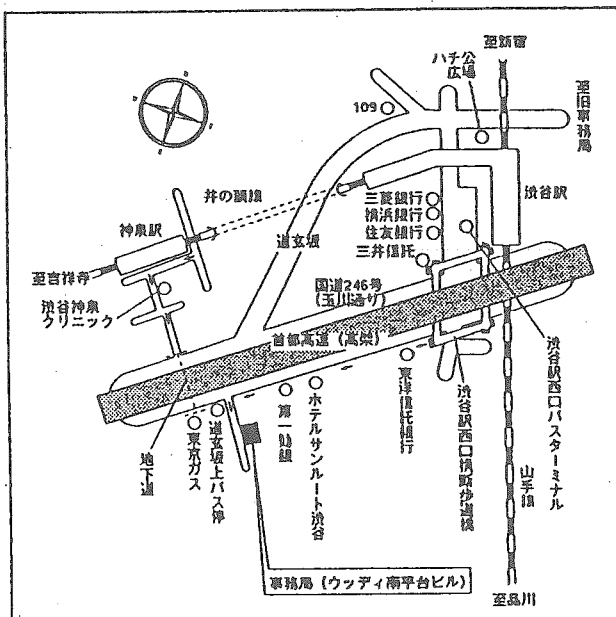
研究センター

03-3463-8862

FAX 03-3463-8844

AM9:30~PM5:50

日・土・祭日定休



[本部企画事業部の移転先]

152 目黒区自由が丘2-3-12

自由が丘サクスネイチャー

(自由が丘駅から徒歩8分)

企画事業部

TEL 03-5701-8400

FAX 03-5701-8479

AM10:00 ~ PM6:00

日・土・祭日定休

バードショップ

TEL 03-5701-6400

AM10:00 ~ PM8:00

水曜定休

念のため

支部事務局は移転しません

『にほめの一步』逗留記

町田好一郎（本庄市）

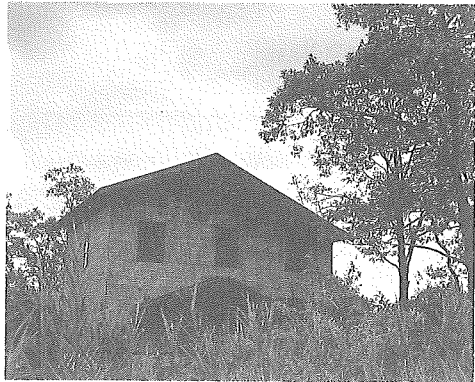
『しらこぼと』6月号に掲載されていた渡辺浩平オーナーの『夢の山小屋・にほめの一步』に出掛けることができた。

今年は酷暑で超多忙、休暇が取りづらいのは分かっていたが、入社ウン十年のありがたさ、意外とスンナリREFRESH休暇が取れてしまった。

戸隠で2日間の撮影の後、鬼無里経由で愛車『トッポ』の快適な走りを楽しみ、1時間ちょっとで白馬に入る。木の香がただよう3階建、5つのベッドにバス・トイレ・最新式ビデオ一体TV完備の客室が5部屋。各部屋の窓からは、木立が目前に迫っている。

アオゲラ・オオアカゲラ・オオルリ・アカハラ・クロツグミに、上空はノスリ・ハチクマが帆翔する姿も。逗留3日目には、松井支部長ご夫妻も出現して、支部会員たちでワイワイガヤガヤ大いに盛り上がった。

近くの散策は、1泊なら、柵池高原と自然園コースか、八方尾根第1ケルンコースのいずれかをお薦めしたい。2泊の場合は、両方



のコースを十分堪能できる。

両者の中間にある岩岳ハイキングコースも快適で、オーナーお薦め特選コースだそうだが、残念ながら私は体験していないので、何とも言い難い。いずれにしても寄鳥見鳥、まずオーナーに相談するのが先決。美味しいコーヒーを楽しみながら、じっくり話を聞いてからでも、決して遅くない。

紅葉の頃もまた良からう。10月22~23日の支部戸隠探鳥会終了後に足を伸ばす計画を、早くも立てている。

白頭鷺の英名講座・第9回

セグロセキレイ・ハクセキレイ・キセキレイ

セキレイの類を総称してWagtailといいます。Wagとは、ちょうど犬が尾を振るような動作を指すので、『Tail（尾）を振る鳥』ということになります。和名では色分けだけですが、英名の方はやや複雑になっています。

セグロセキレイ Japanese Wagtail(日本の)

ハクセキレイ White Wagtail (白い)

キセキレイ Gray Wagtail (灰色の)

キセキレイが Yellow(黄)でなくて何故Gray(灰色)なのか定かではありませんが、おそらく背中の色から命名したのでしょう。鳥のどの部分に注目したかによる違い、ということでしょう。同様にアオサギもBlue(青)ではなくGray Heronです。私自身、間違えて“Blue Heron”と外人に説明する傍から“Gray Heron!”と他の日本人バードウォッチャーに

訂正されて赤面した経験があります。

何故セグロセキレイにJapaneseという形容詞が冠せられるのでしょうか。世界の11種あるセキレイ類のうち、セグロセキレイだけが日本固有の種で、日本でしか見られないからです。外人のバードウォッチャーには、まずセグロセキレイを教えてあげたら喜ばれること請合いです。

“Japanese”がつけば、すべて日本固有種かということ、必ずしもそうではありません。日本固有種は、ヤマドリ・ヤンバルクイナ・アマミヤマシギ・アオゲラ・ノグチゲラ・セグロセキレイ・カヤクグリ・アカヒゲ・アカコッコ・メグロ・ルリカケスの11種。このなかでJapaneseがつくのは3種だけですが、どれでしょうか？ 次回をお楽しみに。

ツバメ
ツバメ
ツバメ

ツバメ

ヨシゴイ ◇6月17日、幸手市木立の中川で1羽(田畑孝)。
 ゴイサギ ◇5月29日、岩槻市太田2丁目の元荒川の岩槻橋下流、元荒川と遊歩道にはさまれた笹の密生した林の中で営巢中。数は不明(橋口長和)。
 ササゴイ ◇5月14日、戸田市道満荒川第一調節池で1羽(駒崎政雄)。◇6月19日、飯能市浄化センター付近の入間川で1羽(藤森三治・恵美子)。◇7月7日、飯能市下畑、成木川で1羽(藤森三治・恵美子)。
 アマサギ ◇5月24日、戸田市道満荒川第一調節池で1羽(高橋達也)。◇5月29日、大宮市膝子で8羽(工藤洋三)。◇6月11日、吉見町の吉見総合運動公園の土手下で夏羽9羽(長島岩雄)。
 マガモ ◇5月25日、飯能市下畑、成木川で♂2羽(藤森三治・恵美子)。
 カルガモ ◇6月17日、川越市の伊佐沼西側の水路で親鳥3羽、ヒナ20羽以上。集団保育でもしているのでしょうか(中司隆由)。
 ヨシガモ ◇5月3日、戸田市道満荒川第一調節池で♀1羽(駒崎政雄)。
 オカヨシガモ ◇6月11日、戸田市道満荒川第一調節池で♂1羽(駒崎政雄)。
 ミサゴ ◇5月4日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で1羽(高橋達也)。
 オオタカ ◇5月21日、深谷市の利根川上武大橋下流で若鳥1羽(井上幹男)。
 クマタカ ◇6月4日、両神山で1羽(細井要)。
 チョウゲンボウ ◇5月14日、浦和市上野田の見沼自然公園付近の高圧線上で1羽(工藤洋三)。◇6月4日、入間市狭山台の大妻女子大学付近で2羽。営巢中(千葉能亢)。
 キアシシギ ◇5月22日、坂戸市の高麗川城山橋上流の中洲で5羽(増尾隆)。◇5月23日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で1羽(高橋達也)。
 チュウシャクシギ ◇5月3日、戸田市道満荒川第一調節池で3羽(駒崎政雄)。

アカエリヒレアシシギ ◇5月30日午後6時、浦和市の白幡沼で1羽。沼のマンション後側にあたるところで、懸命にエサとりをしていた(海老原教子)。
 アオバト ◇6月4日、戸田市道満の管理橋付近の木で♀1羽(駒崎政雄他4名)。
 カッコウ ◇5月21日、桶川市若宮の自宅付近で鳴き声を聞く(立岩恒久)。◇5月24日、富士見市鶴瀬西の自宅で鳴き声を聞く(中司隆由)。◇5月30日、大井町八軒家で1羽アオムシを捕食していた(増尾隆)。
 ツツドリ ◇6月2日、寄居町赤浜で鳴き声を聞く(保坂達司)。◇6月17日午前4時、大宮市南中野で鳴き声を聞く(袁輪眞澄)。
 ホトトギス ◇5月15日夕暮れ、大宮市加田屋新田の雑木林で鳴き声を聞く(工藤洋三)。◇5月29日、滑川町の森林公園で2羽以上(三田長久他3名)。◇6月25日、春日部市牛島の自宅付近で1羽(門屋直樹)。
 フクロウ ◇5月17日、浦和市大間木の自宅で鳴き声を聞く(大武百合子)。
 ハリオアマツバメ ◇6月4日、三峰山で2羽(細井要)。
 ヤマセミ ◇5月28日、秩父市の横瀬川で1羽(山口芳邦)。◇7月15日、飯能市下畑、成木川で1羽(藤森三治・恵美子)。
 カワセミ ◇7月10日、飯能市下畑、成木川で3羽(藤森三治・恵美子)。
 ブッポウソウ ◇6月5日、名栗村の鳥居観音で2羽(千葉能亢)。
 ヤツガシラ ◇7月27日、行田市の利根大堰付近の利根川河川敷で1羽。20m位先にいたがフワリと上流の方に飛び去ってしまった(漆原正浩)。
 ショウドウツバメ ◇5月3日、戸田市道満で電線にとまっているツバメの群れ中に2羽(駒崎政雄)。
 ツバメ ◇4月23日、戸田市道満で腹部が赤みの強いオレンジ色の個体1羽(駒崎政雄)。
 ハクセキレイ ◇5月31日、JR桶川駅西口公園でヒナ1羽。親が時々エサを運んでいた(立岩恒久)。
 キセキレイ ◇6月11日、戸田市道満で幼鳥1羽(駒崎政雄)。

セグロセキレイ ◇5月29日、戸田市道満で幼鳥1羽(駒崎政雄)。

サンショウクイ ◇5月3日、戸田市道満の釣り堀横の林上空で鳴き声(駒崎政雄)。

イソヒヨドリ ◇6月4日、西武鉄道の飯能駅南口サビア屋上で2羽。営巢中(千葉能亢)。

コルリ ◇5月3日、戸田市道満の駐車場付近の竹林でさえずりを聞く(駒崎政雄)。

クログミ ◇7月9日、皆野町の美の山公園でさえずりを聞く。7月16日、同所でヒナが巣から落ちたらしく♀が心配そうに飛び回る。やがてヒナはヤブの中に入る(菱沼一充)。

センダイムシクイ ◇5月3日、戸田市道満の釣り堀横の林で7羽(駒崎政雄)。

キビタキ ◇5月3日、戸田市道満の釣り堀入口付近の竹林で♂2羽♀1羽。釣り堀横の林で♂1羽。管理橋付近の林でも♂♀各1羽(駒崎政雄)。◇6月4日、狭山湖畔の遊歩道に面した桜の木。高さ15mほどの割れ目のような所で営巢中。つがいで頻りに給餌。ヒナは3羽まで確認できた(山口芳邦)。◇6月23日午前6時50分、伊奈町小室の自宅付近で♂1羽。あの美しい声を披露(鈴木博志)。◇7月9日、皆野町の美の山公園でさえずりを聞く(菱沼一充)。

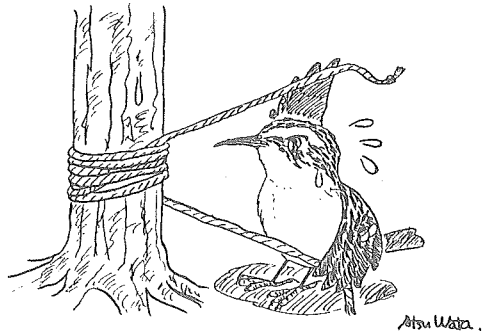
オオルリ ◇6月30日、秩父市の羊山公園で10m程先の枝で幼鳥♂1羽(山岸昭治)。

◇7月9日、皆野町の美の山公園で幼鳥3羽(菱沼一充)。

コサメビタキ ◇5月3日、戸田市道満の釣り堀横の林で1羽(駒崎政雄)。◇6月30日、秩父市の羊山公園で幼鳥1羽(山岸昭治)。◇7月9日、皆野町の美の山公園で幼鳥1羽(菱沼一充)。

「しらこぼと」9月号5ページの戸隠で
でた珍鳥“キシバリ”

(渡辺 敦)



サンコウチョウ ◇5月16日、戸田市道満の釣り堀横の林で♀1羽(高橋達也)。◇5月19日、滑川町の森林公園植物展示ルーム付近でさえずりを聞く(内藤義雄)。◇5月22日、大宮市片柳の大宮共立病院南側の雑木林で♀1羽。鳴き声と姿を十分楽しませてもらう(工藤洋三)。◇6月5日、9日、秩父市の羊山公園でさえずりを聞く(山岸昭治)。◇7月9日、皆野町の美の山公園でさえずりを聞く(菱沼一充)。

エナガ ◇6月30日、秩父市の羊山公園でエナガのファミリー(山岸昭治)。

コヨシキリ ◇5月21日、深谷市の利根川上武大橋下流で1羽(井上幹男)。

ツリスガラ ◇5月3日、戸田市道満の管理橋付近で13羽。護岸に生えているヤナギの種子をついばんでいた(駒崎政雄)。

アオジ ◇6月11日、戸田市道満の管理橋付近の林でさえずりを聞く(駒崎政雄)。

イカル ◇7月9日、皆野町美の山公園でさえずりを聞く(菱沼一充)。

スズメ ◇7月12日午後7時、飯能市下畑、成木川の川べりの榎で100羽位がねぐらをとっていた(藤森三治・恵美子)。

表紙の写真

ネイチャーフォトコンテスト 1993 入選作

ヤマガラ(シジュウカラ科)

林の中に餌台を作り、鳥を呼んで写真を撮っていると、最初のうちは、ただ近くで大きく鳥が写せただけで嬉しく、喜んでいた。

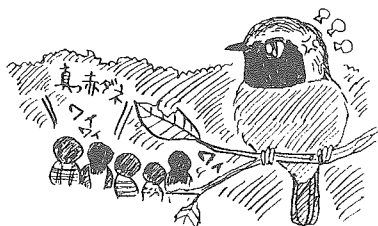
何枚も撮り続けて、その内に、いつも同じ様な写真に、飽きてしまった。

秋も深まったある日、餌台にしている古い切り株に、赤や黄色の落ち葉をあしらひ、ヤマガラとともに写し込んで見た。

うーん、たまにはこういうのもいいかな。

登坂久雄(八王子市)

行事あんない



(渡辺 敦)

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日。参加費は一般100円。会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会埼玉県支部”の旗か、青い腕章をつけた担当者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：10月2日（日）

集合：午前8時40分 北本自然観察公園駐車場、または午前8時15分JR高崎線北本駅改札口。集合後、タクシーで現地へ。リーダーの指示により分乗して下さい。

担当：岡安、榎本、内藤、吉原、関口、永野（安）、永野（京）、渡辺（光）、川那部
見どころ：コガモ、アオゲラ、コサメビタキ、サシバ。鳥達は何処からやってきて何処へ行くのか？ 地球儀を前にふと考えこんでしまう。そんな秋の鳥見です。

川口市・差間探鳥会

期日：10月2日（日）

集合：午前9時 JR武蔵野線東浦和駅前

担当：手塚、伊藤、笠原

解散：東浦和駅付近のグラウンド

見どころ：ススキの穂が光って、秋まっ盛りの差間。ノビタキが、ツツドリが、さわやかな風とともに多くの渡りの鳥も通り抜けていきます。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月9日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車

担当：菱沼（一）、森本、小池、関口、菱沼（洋）、斎藤、根岸、中島（章）、和田、

石井（博）

見どころ：秋風にゆれるススキ。高らかに鳴くモズ。日ごとに増えるカモ。そしてノビタキやコサメビタキなどの旅人たち。秋の大麻生はおもしろい。

北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：10月9日（日）

集合：午前9時10分 東武日光線柳生駅前

交通：JR宇都宮線大宮8:01発→栗橋8:30着東武日光線乗換8:52発→柳生9:02着

担当：中島（康）、松井、吉原、五十嵐、入山、篠原（五）

見どころ：見上げる青空にミサゴ、チュウヒ、チョウゲンボウ。渡って行くショウドウツバメ、カケス。草原にノビタキ、池のカモ。いやもう役者が勢揃いのワクワク渡良瀬です。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：10月16日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口（集合後、バスで現地へ）または、午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、渡辺（周）、手塚、笠原、伊藤、田口、岡部、嶋田、倉林

見どころ：なにかと注目されてる見沼たんぼです。秋の訪れ、収穫の秋です。鳥たちも、北の国から、山の上から帰って

きます。今年は、お米が豊作です。豊作に感謝しながらの鳥見といたしましょう。

長野県・戸隠飯綱高原探鳥会（要予約）

期日：10月22日（土）～23日（日）

定員に達しましたので締切りました。

浦和市・秋ヶ瀬探鳥会

期日：10月23日（日）

集合：午前8時 JR浦和駅西口バスロータリー
（集合後バスで現地へ）

担当：福井、楠見、小林（み）、工藤、桜庭、笠原、嶋田、羽石、倉林、佐藤（進）

見どころ：秋ヶ瀬の秋は冬鳥の第一陣、ジョウビタキ、シメ、カシラダカ、アオジなどとの再開で幕あけ。一方シギやチドリは来春までの見納め舞台です。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：10月29日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

野鳥写真クラブ定例会

とき：10月29日（土）午後2時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：10月30日（日）

集合：午前9時30分 県立さきたま資料館前
レストハウス

交通：JR高崎線吹上駅北口より、東武バス、行田車庫（佐間経由）行き8:55発に乗車、「産業道路」下車 徒歩15分

担当：内藤、岡安、立岩、吉原、逸見、関口、和田、石井（博）、渡辺（光）

見どころ：深み行く秋とともにカモ達が古墳の池に戻ってきました。間近に観察できてピギナーにも最適。前玉神社の林では何が出てくれるかな？

川越市・西川越探鳥会

期日：10月30日（日）

集合：午前9時 JR川越線西川越駅前

交通：JR川越線大宮8:34発に乗車

担当：佐久間、長谷部、石井（博）、三田、池永、小野、山本、中村（祐）、藤掛

見どころ：晩秋の入間の川辺にはすでに、冬鳥がおとずれ、ひとあし早く来たカモ達は化粧直しの真最中。ブルー—直線カワセミの登場も予約済みですよ。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：11月3日（木・祝）

集合：午前7時30分 丸山公園北口駐車場

交通：JR高崎線上尾駅西口4番バス乗場より西上尾車庫（畔吉経由）行き7:07発に乗車、「前原」下車 徒歩10分

解散：午前11ごろ

担当：立岩、吉原、阿久沢、丹、永野（安）、永野（京）、浅見、川那部、宇原

見どころ：早朝の冷たく澄んだ空気の中、耳をすますと鳥の声……。北国からきたばかりのジョウビタキ、シメなどの冬鳥たち。早起きは三文の得ですよ。

富士見市・柳瀬川探鳥会

期日：11月3日（木・祝）

集合：午前9時 東武東上線柳瀬川駅前

担当：石井（幸）、高草木、黒田、中村（治）、中村（祐）、神場、遠藤

見どころ：刈田に田園の貴公子タゲリが訪れるとそろそろ冬支度。今年もきっと“ミュージー”を黒と白の翼にのせてきかせてくれます。是非来て下さい。

今月号のカット

渡辺 敦（名古屋市）

紅葉を見物に来た人々の後方で、渡来したばかりのジョウビタキがプン！彼の言い分は「オイラだって同じような色してるんだぞ！なんであっちばかり見てんだ!!」いいじゃないですか、探鳥会ではスターなんだからとなだめてあげましょう。

11月6日（日）・大宮市民の森探鳥会

11月12日（土）・奥日光探鳥会

11月12日（土）・桶川市川田谷探鳥会

行事報告



4月24日(日) 浦和市 秋ヶ瀬

参加: 61人 天気: 曇&晴

カイツブリ カワウ ダイサギ チュウサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ キジ イソシギ タシギ ユリカモメ シラコバト キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ センダイムシクイ セッカ オオルリ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) ユリカモメの夏羽をじっくり観察。ダイサギ、チュウサギ、アオサギ。そして、なんとオオルリをじっくり見てしまったのです。

(福井恒人)

6月4~5日(土~日) 長野県 戸隠飯綱高原

参加: 31人 天気: 晴

カイツブリ アオサギ カルガモ ハチクマ トビ ノスリ キジ イカルチドリ キジバト ジュウイチ カッコウ ツツドリ ホトトギス フクロウ ハリオアマツバメ アマツバメ アカゲラ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ サンショウクイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ コルリ クロツグミ アカハラ ウグイス オオヨシキリ メボソムシクイ センダイムシクイ キビタキ オオルリ コサメビタキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ メジロ ホオジロ ノジコ アオジ クロジ カワラヒワ イカル ニュウナイスズメ スズメ コムクドリ ムクドリ カケス ハシブトガラス (56種) 蝉時雨の中バスを降りた。エゾハルゼミの声でなかなか鳥が見つからない。雪をいただいたアルプスの山々を眺めながら昼食をとる。一の鳥居付近でカッコウ、コサメビタキ、ハリオアマツバメを見てから別荘地を歩く。ここでもセミの声がうるさかったが、コムクドリやサンショウクイが見られた。次の日、3時に起床してオオジシギを見に行くが、空振り。

しかし、森林植物園では、ニュウナイスズメ、アカハラ、コルリ、クロジ、ミソサザイなどを全員で観察できた。希望者で奥社までオオルリを見に行く。無事見られて帰ってくると、隋神門に残った人たちも見られたとのこと。今回の戸隠はほとんどの鳥を全員で見られて良かった。追伸: お礼の手紙をいただき、有難うございました。

(菱沼一充)

6月5日(日) 北本市 石戸宿

参加: 66人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ヨシゴイ ゴイサギ コサギ カルガモ コジュケイ キジ バン キジバト カッコウ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス (27種) 高尾の池の畔で、枯れ枝に仲良く並んで親から餌をもらう5羽のツバメの幼鳥を観察。北里の池では、不器用なコサギの巣作りが、参加者の笑いを誘っていた。一夜堤近くの遊歩道にオトシブミがたくさん落ちていたのに気づいてくれたかな。

(岡安征也)

6月12日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 59人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ カルガモ チョウゲンボウ キジ バン イカルチドリ イソシギ コアジサシ キジバト カッコウ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 梅雨入り前のどんよりとした空であったが、多くの人が集まった。旧押切橋までの河原のコースに行くには曇りの日がいいだろう。河原に着くと早速セッカとオオヨシキリがお出迎え。セッカは広げた尾羽の白黒模様がよく見えてファンテイルとはよく言った

ものだと感心した。水辺では、カワセミ、コアシサシ、イカルチドリが見られた。下見の時にはたくさんいたカッコウは声も聞こえず心配したが、最後に木のてっぺんで鳴いている姿をたっぶり見ることができた。(菱沼一充)

6月19日(日) 浦和市 三室地区

参加: 35人 天気: 雨

コサギ カルガモ キジバト コゲラ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(16種) 久しぶりの大雨であった。博物館の中で、支部の協力で放映されたNHKテレビのビデオ「新緑シジュウカラ日記」を楽しんだ。博物館の後援で行っている探鳥会の有難さである。本日も、博物館の要請でボーイスカウトの子供たちを20名受入れた。今後も地元密着の探鳥会として行きたい。(楠見邦博)

6月25日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 12人

荒木恒夫、井上明子、岩上照代、海老原教子、海老原美夫、佐藤信治、篠原東彦、新堂克浩、松元達夫、安原久子、谷津弘子、渡辺浩平

常連の方も多い袋詰め。いつも御苦労様です。

7月3日(日) 上尾市 八枝神社

参加: 55人 天気: 晴

アオバズク(1種) アオバズクは、明るいうちはケヤキの高い枝で1羽(多分♂)が巢の番兵をしながらずっと目をつぶって、休んでいた。18:40には、幹の真ん中あたりの穴からもう1羽(多分♀)が顔をのぞかせて、こちらを見ていた。日没後(19時頃)あたりが段々と薄暗くなってくると、♂♀が外へ飛び出しては、蛾をフライキャッチして、雛のいる巢へ戻る行動が繰り返し見られた。でも大勢の人にびっくりしたのか、私たちの上空へはやってこなかった。親が巢へ戻ると、雛が小さな高い声でチリリリ…、チリリリ…と親に餌をねだっているのが時々聞こえてきた。観察中に今年初めてヒグラシの声を聞いた。(立岩恒久)

7月10日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 28人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ ササゴイ ダイ

サギ コサギ アオサギ カルガモ コジュケイ コチドリ イカルチドリ イソシギ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス(31種) 今にも雨が降りそうな空模様で、人の集まりも悪い。ゴルフ場の芝生の上ではたくさんのムクドリが餌をついばんでいた。色の薄い幼鳥が多く混じっている。ホオジロ、セグロセキレイも幼鳥がちらほら。あれほどさえずっていたオオヨシキリやセッカはおとなしい。やっと見られたオオヨシキリもどうやら幼鳥だ。明戸堰ではお目当てのササゴイが見られ、ゴイサギも居たので識別のお勉強。サギの間は、ダイサギ、コサギ、アオサギも見られ、サギ三昧の日だった。(菱沼一充)

7月17日(日) 浦和市 三室地区

参加: 29人 天気: 快晴

コサギ カルガモ バン コジュケイ シラコバト キジバト カッコウ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ コムクドリ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(24種) 今年の夏は暑い、暑いの一言に尽きる。リーダーとして一番辛い季節である。しかし、そこは腕の見せどころと“シラコバト、コムクドリ、カッコウ”と出して見せて、拍手喝采のショートな探鳥会。暑い歩きの後には、麦茶で喉を潤し、涼しい博物館の中で鳥合わせ。これが好評だった。(楠見邦博)

7月24日(日) 狭山市 入間川

参加: 27人 天気: 晴

ゴイサギ ササゴイ コサギ カルガモ トビ コジュケイ キジ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(28種) 夏の探鳥会の必需品は、水と帽子と健康な体。今回の参加者は、日頃から健康管理には気を使っている人ばかりのようだ。事故やけがが人、気分の悪くなる人もなく無事終了。皆さんのお陰です。(長谷部謙二)

連絡帳

●秋のパネル展にお集まりください ——
タイトル “気ままにバードウォッチング”
期間 平成6年10月29日(土)～11月6日
(日) 初日は正午から、最終日は午後5
時まで
場所 熊谷駅ビル・アズ熊谷
4階 カプセルプラザ
後援 (株)アイリスメガネ アズ熊谷 (株)ニコ
ン・オプティカル
内容 仮称『埼玉野鳥見て歩き』として出版
作業が進行していた本が、正式名称『気ま
まにバードウォッチング』と決まって、つ
いに発刊。これを記念して、掲載写真の一
部をパネル展示し、県内の野鳥についての
ベーシック情報をPR。出来たてはよはや
の本を、手に取ってご覧ください。
初日の午前10～12時は展示作業、最終日
午後5～6時は撤去作業。お手伝いいた
だける方は、役員リーダーに限らずどなた
でも、会場にお集まりください。

●「黒田会長カラス組」もよろしく ——
今年のバードソンにも、近県支部代表者た
ちと黒田会長が特別チームを結成。埼玉県支
部代表は、松井昭吾支部長です。
場所は、今話題の谷津干潟。公開探鳥会形
式ですので、どなたでも参加できます。ど
うぞもりたててください。
集合時間 11月13日(日) 午前9時30分
集合場所 JR京葉線 南船橋駅改札口
解散予定 正午頃

●住所変更などは、直接本部会員室に ——
支部の会員情報は、すべて本部会員室のオ
フコンに入力し、『しらこぼと』の宛名ラベ
ルも、毎月そのオフコンで作成しています。
ですから、住所や名前の変更などは、直接
本部会員室の方にご連絡ください。本部会員
室から支部事務局には、毎月2回事務連絡が
あり、支部の会員カードは、それで書き変え
しています。

連絡先 (財)日本野鳥の会会員室 150 洪
谷区南平台15-8 ウッデイ南平台ビル2階
TEL 03-3463-8842
FAX 03-3463-8844

●支部の郵便振替番号が変更 ——
旧番号「東京9-121130」から、新番号
「00190-3-121130」に変わりました。当
分の間は、旧番号でも届きます。

●10月の土曜日当番(2時～6時) ——
1日 中島康夫 楠見邦博(普及部会議)
8日 岡安征也 丹 茂子
15日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)
22日 笠原伸子 小野光明(校正の日)
29日 袋づめの会(1時から)

●会員数は ——
9月1日現在 2,451人です

活動報告

8月5日 あさ銀ユニオンクレジット探鳥会
指導依頼、打ち合わせ。
8月6日 普及部会議。
8月16日 『気ままにバードウォッチング』
野鳥解説の部入稿。17日・23日・24日幹書
房と打ち合わせ。
8月20日 9月号校正作業(海老原美夫、工
藤洋三、内藤義雄、渡辺光行)。
8月20日 役員会議(司会・伊藤芳晴、12月
までの行事予定・その他)。
8月22日 アズ熊谷とパネル展打ち合わせ。
8月22日 蓮田市中央公民館探鳥会指導依頼
に関する連絡。

編集後記

今年もなじみのアオバズク夫妻が、2羽の
子供たちを育てあげた。この一家が無事に帰
れる所が残っています様に……。 (山部)
熊谷に転居5年目の夏、自宅そばでアオバ
ズクの声をはじめて聞いた。大宮の林に設置し
たアオバズク用巣箱は3年目未入居。(森本)

『しらこぼと』1994年10月号(第126号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)